

令和7年度 第4回近江八幡市こども・子育て会議 要録

- 日 時 令和8年3月10日（火）10時00分～12時05分
- 会 場 近江八幡市商工会議所 2階大ホール
- 出席委員 中川千恵美委員（会長）、久木康行委員（副会長）、榎本祐子委員、
原未来委員、浅井雅委員、中嶋亜希子委員、松本共子委員、重野弘樹委員、
秋村加代子委員、伊崎葉子委員、森茂次委員、山本清八郎委員、朽木弘寿
委員、柳生強委員、大更秀尚委員、東山孝三郎委員、西村静恵委員
- 傍聴者 0名

○議題

- （1）パブリックコメントの実施結果および回答について
- （2）近江八幡市こども・若者・子育て支援計画（案）について
- （3）こども・若者の意見聴取のフィードバックの実施報告について

1. 開会

会長挨拶

年度末でもあり、計画確定に向けた会議となる。あらためて人つなぎの大切さを実感する。先日、視察で千葉県松戸市を訪問した。松戸市では妊娠8か月頃の面談を様々な方法で実施されていたが、その方法のひとつに地域子育て支援拠点での面談があった。出産前である妊娠中に施設を訪問することになり、自身の身近な子育て支援施設の存在を知るきっかけのひとつとなっていた。当事者の生活動線を踏まえ、制度に引き寄せていくものであり、当事者目線で人つなぎを実施している取組に興味深く思った。

今回、近江八幡市で策定するこども・若者計画についても、どのようにアプローチしていくと当事者に響くのか、そんな議論もしていきたい。また年度末でもあるので、それぞれの団体を代表している委員の皆様から、最後に一言ずつ頂けたらよいと思っている。

2. 議事

- （1）パブリックコメントの実施結果および回答について

事務局：資料1・2について説明

委員：意見1の一時預かり利用料金について、低所得者向けの減免をしない場合の利用料金はいくらか。

事務局：通常の利用料は1時間800円である。

委員：今回パブリックコメントの意見提出者が1名であったことについて、もう少し真剣に考えなければならない。こども、若者、子育て世帯にとって重要な計画であるにもかかわらず意見者が少ないのは、そもそも計画の認知度が低いのか、あるいはパブリックコメントのやり方に問題があったのかなどが考えられるが、ここをきちんと可視化しなければ計画が本当に必要な層に届かない。意見の数には当事者に届いていないことが表れており残念でもったいなく思う。パブリックコメントの工夫として、計画をそのまま使うのではなく、政策の方向性の箇所をわかりやすく示した資料を作成して使うことなど、もう少し意見しやすい資料を作成する必要がある。こども・若者の目線だけでなく、保護者にとっても、この計画全てに目を通すのはとても大変である。自治体にとって、パブリックコメントを実施したという事実だけでなく、実質的なパブリックコメントをどう計画して、どう実施するのか、この計画に限ったことではないが、今後真剣に考えていく必要があると考える。

事務局：貴重なご意見をいただいたと考える。また多くのご意見をいただくような十分なパブリックコメントが実施できなかったことに対しての強い反省がある。特に今回は、計画の当事者であるこども・若者を対象としたパブリックコメントが実施できなかったこともあることから、こども・若者・子育て世帯から多く意見をもらえるような方法を模索し、今後意見をいただく機会を創出したいと考えている。

会長：意見の聴取の仕方は、例えば子育て広場などに出向いて、内容を説明した上で意見を聴く方法もある。ホームページに内容を掲載してパブリックコメントを実施するだけでは、意見を提出する対象者は限定的である。計画を作るだけでなく当事者へどのように伝わっていくか、当事者に寄り添った中身になっていることが大事だと思う。事務局についてはひとつの宿題として今後検討していったほしい。他市の参考事例などを把握している委員の方は意見を頂戴したい。

委員：前回の計画では100件ほどパブリックコメントがあったと記憶している。私の住んでいる自治体ではユーチューブ動画を作成してパブリックコメントを募っていたので紹介する。パブリックコメントで意見を提出される方は、時間をかけて計画案を読んで意見を提出しているはずである。今回提出された意見の一つ目は、低所得者に対してだけでなく、みんなにとっての利用しやすさを求めているのではないかと思うので、質問と回答が噛み合っていないように感じる。パブリックコメントについては、近江八幡市に限らず、どの自治体も意見に対する回答が既に対応しているという主旨になっていることが多いため、次回もまたパブリックコメントを出したいと思わなかったり、言っても仕方ないと感じて意見数が少なくなるのではないかと考察する。

会長：近江八幡市に限ったことではないが、パブリックコメントの手法や回答の内容については、市民に寄り添っていくことも必要であると思う。

委員：資料についてはAIでダイジェスト版やスライドを作成するなど、手間をかけずに分かりやすいものを作る方法もある。今回のパブリックコメントの方法では、ホームページ以外では資料の公開場所まで行かないと見ることができないため、日々忙しい方が計画を目

にすることがなかったのではないか。小中学校や園所の情報ツールでパブリックコメント実施を周知することなどができれば、あまり手間をかけずにたくさんの意見をもらえるのではないか。

（２）近江八幡市こども・若者・子育て支援計画（案）について

事務局：資料３・４について説明

委員：p71 外国にルーツをもつこどもは、現在市内にどれくらいの人数が生活しているのか把握はしているのか、またどのようなニーズがあるのか把握しているのか。それに対して施策の目標はこの指標で良いのか。当事者のニーズと目標がマッチしているのか確認しづらいと感じた。

委員：今のご意見に関連して、他の自治体でも同様の事案があり、外国にルーツのある人はそもそもアンケートを答えられるのか、外国にルーツのある人が増えてくるのに、その方々の実態やニーズを踏まえた計画となっているのかという議論になった。調査の方法など課題になってくると思う。

事務局：あらゆる当事者のことを考えるということは、とても重要な視点であり、ある意味根幹であると思う。今後もアンケートなどを実施する際、どのような方法であれば当事者に届き、当事者の貴重な意見を吸い上げることができるのか、そのことを考えながら進めていかなければいけないと思う。

委員：どれだけニーズがあるのか調べられているのかは各項目で疑問に思う。全般的な内容のアンケートであり、保育所等訪問支援事業など発達や障がいに関する項目についてはアンケートに入っていなかったと思うので、どのようにニーズを拾うのかこれから考えていかなければいけない。そのことは活動の中でも大切にしていきたい。以前、この会議でも紹介をさせていただいた「こども×まちフォーラム」では、こどもの視点での様々な意見を聴くことができた。大人の都合の中でこどもの意見を聴くのではなく、しっかりとこどもの中に入って、意見を聴く場をつくっていく必要があると感じた。

会長：イベントでの子どもからの意見はホームページ等で公開やフィードバックをされるのか。

委員：ぱびぷべぼのホームページで公開している他、こども家庭センター、子育て政策課にはイベントの報告書を提出している。

委員：外国にルーツのある家庭について、子育て広場からの情報を共有したい。子育て広場を利用している外国にルーツのある家庭の子育て世帯では日本語が難しい方が多い。各家庭の困っていることなどを聞くのは対面の方がわかりやすい。コミセンでは日本語教室が開催されており、お母さんが子連れで日本語を学ぶ機会も設けられているので紹介をしている。外国籍の方はコミュニティを持っていないことが多いが、日本語教室がコミュニ

ティや情報を入手しやすいネットワークをつくってくれていると感じている。

(3) こども・若者の意見聴取のフィードバックの実施報告について

事務局：資料5について説明

委員：安土学区では複数の団体が協力して、こども・若者支援の活動を推進する取り組みをはじめられたように聞いている。そのような事例も参考に、市での取組を考えてはどうか。

委員：具体的には、まちづくり協議会の各支援団体でプロジェクトチームを作り、先進事例を学びながら、こども・若者支援の活動をしていこうとしている。まち全体でこどもや子育て世帯へどのような支援していくかを今、課題を出し合っているところである。

委員挨拶

委員：利用者支援事業等、自分の専門性を生かして近江八幡市に貢献していきたい。

委員：短期間でありながら丁寧に委員の意見にも応答していただいて感謝する。今後当事者の声をどのように反映していくか、広く一般的に多くに声を聴くことも大事であるが、聴き取りづらい声をどのように掬い上げるかを考えていくことを意識しながら取り組んでいただきたい。

委員：市内で有志の保護者会に関わっている経験から、声を上げる方、マジョリティ側が少ない町なのかと感じている。意見を言いやすいようにすること、皆を巻き込んでいくことが必要だと感じる。

委員：親の横のつながりが減っていることを感じている。PTA やこども会など身近なコミュニティが減っている中で、当事者でありながらどこに声を届けたらよいかわからないことを自分でも経験したことがある。意見を言える場を設けていただけたら嬉しい。

委員：こどもを真ん中に計画を作っていただいたのでありがたい。各施策については当事者などの意見を聴きながら進めてもらえることを期待する。

委員：今年度と来年度で学区ごとに住民主体で福祉計画を作っている。色々な計画が連携しながら繋がっていくと良いと思う。

委員：関わっている方々の中にはサービスを利用できなかったり、サービスに繋がるまでに時間がかかったりしていることも多い。当事者の保護者同士の連携も大切であり、同じ気持ちを分かち合える保護者同士の取組に対しても支援してもらえるとありがたい。

委員：こどものそれぞれの成長に合わせて、計画がうまく機能していくことを願う。

委員：行政の取組は、行政のキャパシティーの中で事業をやっていくことを考えるので、本来のニーズを基にした視点での取り組みができない部分もあると考える。どれだけ多様な意見を吸い上げられるか、現場の声を聴きながら進めていただければありがたい。行政の中にも計画の策定などに関する専門的なコンサルの方がいると、より意義のある会議となるのではないか。

委員：会議の内容について、自分の活動に関連するところで意見を述べさせてもらった。コミセンのパブコメはほとんど気づかれないままに置いてあったため、どのようにして見てもらえるかを工夫しなければいけない。平日ではなく土日に見られるようにするのも方法の一つではないか。

委員：こども・若者・子育て当事者にとって、学びの場を大切にしていきたいと思う。

委員：保育所の第三者苦情委員・運営委員をしているが、今年度一つも保護者から苦情がなかった。日々保育士の先生方が保育と各家庭を支えてくれているのだと感じている。

委員：行政職員の負担が減りつつ、色んな方の意見が聴ける体制になるといいと思う。

委員：自分の団体の取組の中で就労支援が一番難しく感じている。民間の機関と公的な機関が繋がって支援ができるとよい。また当事者自身から各機関に繋がってこられるようになることも考えていきたい。

委員：学校現場での実施する児童へのアンケートで、困ったことや悩み事を相談できているかの項目の回答は数値が低い。こどもたちの声をどのようにキャッチするかが学校現場でも課題となっている。親も仕事で日々大変ではあるが、ゆったりと親子で過ごせる環境が整うことがこどもにとって一番良いのではないかと思う。

委員：学童では意見を聞いても言わない子が多く、一方で環境に適応するのが早い。小さいころから保育所の利用で慣れているのか、環境が変わった時の適応は早い、対人コミュニケーションが不足しているように感じる。施策について意見を言える場所、伝える場所があって、市民が求めることが積み重なっていくと、施策がよりよく変わっていくのではないかと思う。簡単なことではないが各施策について、市民が意見を言える方法や場所があると、よいのではないかと考える。

会長：近江八幡で暮らすこども、その家庭の多様なニーズにどう受け止め、個別に寄り添っていけるのか、今後の計画の進捗管理や見直しにおいても、委員の皆様に見守っていただき、引き続きお力添えをいただきたい。

3. 閉会

副会長挨拶